

中学校 第1学年 国語科書写 学習指導案

東京学芸大学
准教授 草津 祐介

単元名	三行書で書いてみよう 5点画の連続と変化2「栄光」(2時間)
単元のねらい	点画の連続と形の変化を理解して書くことができる。
本時のねらい	点画の連続と変化を理解して、字形を整えて書くことができる。(第2時)
指導時期	10～3月

「指導者用デジタル教材」活用の意図・目的

中学校段階における書写の学習については、生徒一人一人のこれまでの学習経験の違いから、とりわけ技能の習熟度について、個人差が大きく、指導の限界があったかもしれない。これからは、「指導者用デジタル教材」を活用することにより、習熟度による個別最適化を図れる可能性があるのではないかと思います。

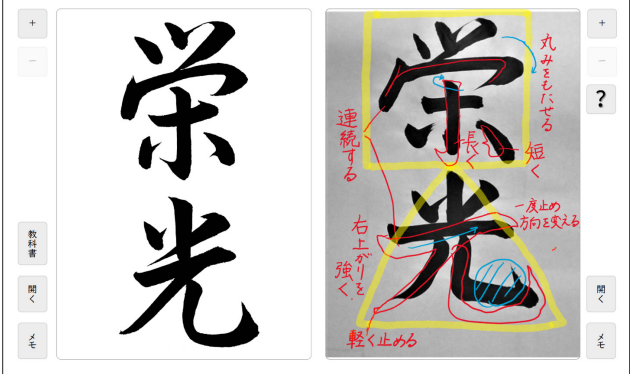
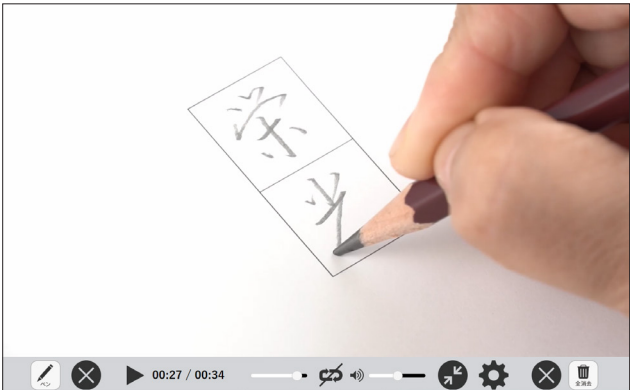
更に、これまでは印刷された紙の教材を中心に学習していたが、動画を用いることにより、書くリズムやスピード、筆の使い方などといった運筆にも注目した指導の可能性へと広がっていく。中学校での書写の学習は、字形を整えるのみではなく、どのようになめらかな運筆で書いていくかが重要である。そのために動画を積極的に活用していきたい。

また、ICT端末を活用することにより、デジタルポートフォリオの蓄積が容易になっていくだろう。生徒自らがどのように課題を設定し、解決を図ろうとしたのか、その学習過程をデジタルポートフォリオとして、一つの端末やクラウドに蓄積できることは、デジタル化の強みでもあるので、ぜひ活用していきたい。

このような観点から、「指導者用デジタル教材」やICT端末を効果的に活用し、より多くの生徒が書写の目的を達成できるようにしていきたい。

本時(第2時)の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。	

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	● 前時の学習について復習する。 前時で学習した「栄光」の教材文字に見られる点画の連続と、点画の変化について、動画「ポイント」で復習する。 ● 本時の目標をしっかりと理解する。 黒板に本時の目標を示す。 目標 点や横画からの連続と、点画の変化を理解して、字形を整えて書こう。	動画「ポイント」 
展開	● 「比較ツール」を用いて、教材文字「栄光」と前時に書いた「栄光」の写真とを横に並べ、点や横画からの連続と、点画の変化について、課題があれば書き込む。 ● 動画(習熟度に応じて、「全体像」または「ポイント」のいずれか)を生徒が自分で選んで視聴し、自己の課題を明確にするとともに、課題の解決方法を再確認する。(「比較ツール」に書き込んでいない視点があれば記載する。) ● 二人程度のグループを組み、執筆している様子を動画「全体像」と同じ画角で撮影し、自身の運筆の様子を撮影した動画で復習してもよい。 ● 練習する。	「比較ツール」  動画「全体像」 
まとめ	● 毛筆でまとめ書きをする。 完成したものを撮影し、保存する。 ● 本時の目標達成について、自己評価をする。 評価 点画の連続と変化を理解して、字形を整えて書いている。 (知・技)(まとめ書き、評価カード) ● 動画「硬筆(行書)」を視聴し、「栄光」とその応用(「栄」のつく二字熟語)を硬筆で書くとともに、本単元で学習した点画の連続と点画の変化の他の漢字への応用を考える。	動画「硬筆(行書)」 

「指導者用デジタル教材」を活用したことで得られる効果

本時では、以下のコンテンツを活用している。

①動画（「全体像」「ポイント」「硬筆（行書）」）

②「比較ツール」

また、端末の機能として、以下の機能を活用している。

③カメラ（写真、動画）

④ポートフォリオ作成のための端末保存またはクラウド保存

各地域、各学校によって、デジタル環境が大きく異なっていることもあり、一元的にどの方法がよいと言うことができないと思われるが、各学校のデジタル環境に応じて、効果的に活用していきたい。以下、①から④について、そのメリット、デメリットを考えてみたい。

①動画について

動画は教師が投影したり、生徒が「学習者用デジタル教材」でそれぞれ視聴したりするなどして活用したい。教師が投影する場合は、必要に応じて何度も見せるのがよいだろう。生徒がそれぞれ視聴する場合は、何度も視聴したり、特に見たい部分を集中して見たりするなど、より個別最適化を図れるように促したい。動画は、書写においてはメリットの方が大きいと考えられるため、積極的に活用していきたい。

②「比較ツール」について

「比較ツール」は、一つの画面で教材文字と自身の書いたものを横に並べて比べることができる点が大きなメリットである。また、生徒の考えた改善点を書き込み、画像として保存・蓄積できるのも大きなメリットであろう。更に、その画像データをクラス単位で共有し、意見交換をすることが可能になるというメリットもある。一方、ポートフォリオの蓄積は、成果物そのものの蓄積によっても可能である。なによりも書いた成果物そのものを蓄積していくことも得がたい学習成果であり、大切にしていきたい。デジタルとアナログをうまく組み合わせたポートフォリオの蓄積を図りたい。

③カメラについて

書写の学習では、写真の撮影、動画の撮影、二次元コードの読み取りなど、積極的にカメラ機能を活用していきたい。

④ポートフォリオ作成のための端末保存またはクラウド保存について

デジタルデータは端末があればすぐに活用できるのがメリットであり、その保存先については、他の教科、学習領域も同様に共通して考えていきたい。

当然のことであるが、全てがデジタルということではなく、他の教科、学習領域と同様に、手書きなどの従来型の指導とデジタル教材などを活用した指導のそれぞれの効果を考え、効果的であると思われる場面で積極的に活用していきたい。